

## これまでの出来事 (平成30年度下半期)

- 平成30年  
10月 6日(土) 四大公害病の語り部講話を聴く集い  
～語り部による伝承会～
- 平成31年  
2月17日(日) イタイイタイ病を考える  
県民フォーラム

## 資料館インフォメーション

### これからの行事予定(平成31年度上半期)

- 4月28日(日)～5月6日(月・振替休日)  
春の特別企画展  
「見て触って学ぶイタイイタイ病  
公開講座」(4/28)  
「イタイイタイ病映像展」  
(4/29～5/6)
- 6月下旬 語り部・解説ボランティア研修会
- 7月下旬 夏休み自由研究講座  
～イタイイタイ病を学ぼう～
- 8月上旬 イタイイタイ病を学ぶ日帰り  
バスツアー
- 8月下旬 イタイイタイ病資料館活用研修会
- ※詳細については、資料館ホームページなどでお知らせします。

## 課外学習サポート事業の 利用校募集のお知らせ

～3月26日(火)より募集を開始します!!～

新年度も多くの子どもたちにイタイイタイ病について学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業(環境省委託)」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。また、近接する「四季防災館」を見学する場合は無料区間が延長され、より利用しやすい内容となっています。

利用条件など詳細については、資料館までお尋ねください。

## 語り部講話の聴講者を募集しています

資料館を団体(原則10名以上)で見学される場合には、事前に申込みいただくと、イタイイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。(来館される3週間前までにお申し込みください。)

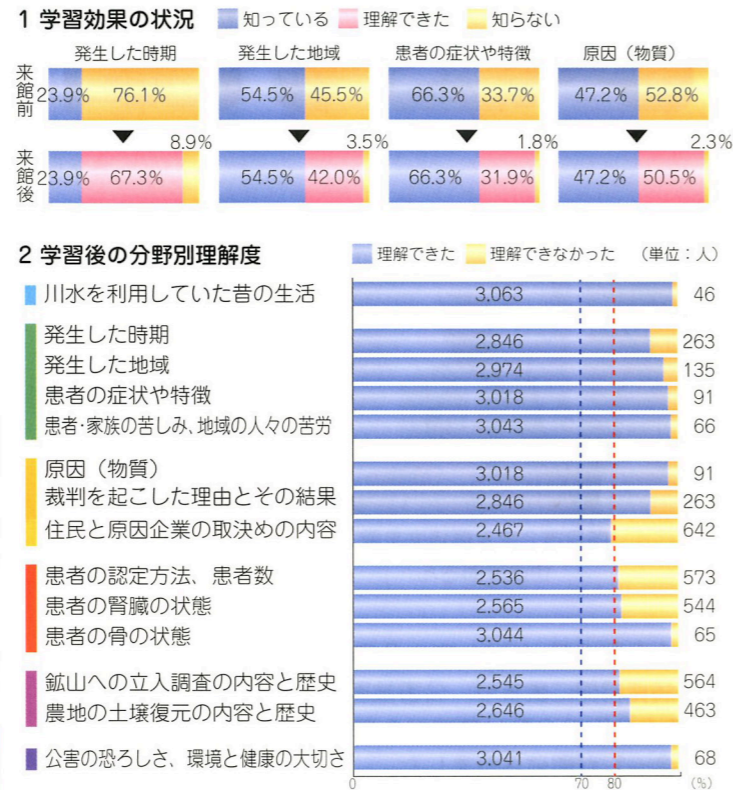
詳細については、資料館ホームページをご覧ください。

発行/富山県立イタイイタイ病資料館  
(平成31年3月発行)

## 子どもたちの

### 「理解」と「興味」が深まっています!

「課外学習サポート事業」利用者調査結果(平成30年度中間とりまとめ)  
調査対象:小・中・大学生(短期大学・専門学校を含む)  
3,109人(55校)



## 調査結果から

- ・見学前は「知らない」と答えていた子どもたちでも、ガイダンス映像を視たり、解説等を聴くことによってほとんどの子どもたちが「理解できた」と答えています。
- ・「川水を利用していた昔の生活」や「患者の症状や特徴」、「原因(物質)」は、学んだことによって理解が深まっており、総括的に「公害の恐ろしさ、環境と健康の大切さ」の理解度に繋がっています。
- ・特に「患者の骨の状態」の理解については、展示室にある骨の標本を持ったことが理解に繋がっていると思われる。

## メールマガジン登録者募集中

資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaiitai-dis.jp】

# 資料館だより

2019年 春号

## contents

- イタイイタイ病の教訓を後世に……… 2
- 資料館の語り部さんです……… 2
- 四大公害病の教訓を未来へ……… 3
- 海外から見学に……… 3
- 資料館の動き……… 4

## 平成31年 2月17日 「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」開催!



## イタイイタイ病を風化させないために

イタイイタイ病資料館が開館して7年になります。年間約3万人の方にお越しいただき、昨年10月に来館者が累計20万人を超えました。

県内の小・中学生の課外授業での利用、一般の団体や個人での見学をはじめ、県外、国外からも来館されています。

昨年10月に「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催しました。水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病の語り部の貴重な講話に感銘を受けました。公害病による身体的・精神的苦痛に加えて、風評・差別・偏見など社会的および経済的被害に苦しめられたことを聴き、後世に広く伝えて行くことが重要であると感じました。

また、今年2月に「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。次代を担う若者たちによる学習発表会では、富山市立古里小学校の5年生がイタイイタイ病の学びを通して、環境保全のために自分達ができる多くの

## 富山県立イタイイタイ病資料館 館長 飯田博行

事を発表しました。

富山国際大学子ども育成学部瀬戸ゼミの学生さんは、大学内でのアンケートを踏まえ、イタイイタイ病を正しく伝えるための取組みについて発表しました。

記念講演では、講演や執筆など幅広く活動しているタレントでコメンテーターの高木美保さんを講師に招きました。栃木県那須で農業に従事している経験から米の汚染に関心が深く、改めてイタイイタイ病の悲惨さを理解したこと、生物多様性や自然と環境を守り、命を感じて暮らすことの大切さを強調されました。

いずれもイタイイタイ病を風化させないために有意義な企画であったと思います。

ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。





# イタイイタイ病の教訓を後世に

開館以来7回目となる「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を2月17日（日）に開催し、約120名の参加者がイタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史、環境や健康の大切さについて理解を深めました。

第一部は、イタイイタイ病資料館の入館状況や取組みなどについて飯田館長より報告し、その後石井知事からご挨拶申し上げました。続いて、次代を担う小学生と大学生に、資料館の見学を踏まえ学習した成果について発表していただきました。彼らの発表は、イタイイタイ病の歴史と教訓を将来に繋いでいくことの重要性を改めて感じるものでした。

第二部では、タレントでコメンテーターである高木美保さんを講師に迎え、「命を感じて暮らす」をテーマに記念講演をしていただきました。

## イタイイタイ病を考える県民フォーラム



### 【発表者と発表内容】

- 富山市立古里小学校（5年生）  
イタイイタイ病資料館の見学をもとに、環境を守るために自分たちができること、また、その取組みについて考えたことをパワーポイントやかべ新聞を利用して発表した。
- 富山国際大学子ども育成学部 瀬戸ゼミ  
「イタイイタイ病の教訓を後世に～若者へと語り継ぐ～」をテーマに、資料館の見学、資料や新聞記事などから学んだこと、また、50年という節目とはどういう意味があるのか、次世代へと継承していくための方法は何かということを発表した。

### 参加者の声

古里小学校5年生の発表に感動いたしました。各自の意見がはっきりしていて、環境、特に水流について認識があり、大人（私達）が恥ずかしくて今からでも遅くないと思い、環境保全に心掛けて行きたいと思えます。（女性・70歳以上）

大学生が、自分たちの思いを自分たちの言葉で伝えたことに印象が残りました。イタイイタイ病は一生をかけて学ぶものです。（男性・50歳代）

実際に農業を行っている高木氏（講師）の講話は興味深く、心にささる内容でした。（女性・70歳以上）

### イタイイタイ病を語り継ぐ 資料館の 語り部さんです



あおしま 青島 明生さん（63歳）

資料館の語り部の方をシリーズで紹介します。

今回は、青島 明生さんに、これまで活動されてきて、うれしかったことや今後伝えていきたいことについて聞いてみました。

青島さんは被害者弁護団の一員として、今も活動をしておられます。弁護士としてこれまで取り組んでこられたことを振り返っていただきました。

#### Q1 これまで活動されてきて、うれしかったことは？

天皇皇后両陛下とG7各国の環境大臣を相次いで資料館にお迎えできたことです。イタイイタイ病問題は、悲惨なカドミウム被害であることと、被害者住民の運動で被害回復と再発防止策が取られたことに世界史的意義があると思います。これらの方々の訪問で、広くこのことが伝えられたからです。

#### Q2 語り部として今後伝えていきたいことは？

公害や環境問題はそこに住む全ての人々・生き物が被害を受け、逃れることはできません。だから、一人一人が自分の問題として、できる限りのことをして解決していくしかありません。皆さんにその一人になって頂きたいです。

# 四大公害病の教訓を未来へ

●「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催しました。

四大公害病の語り部講話を聴く集い  
～語り部による伝承会～



飯田館長 挨拶



水俣市立水俣病資料館  
吉永理巴子さん



新潟県立環境と人間のふれあい館  
小町ゆみ子さん



四日市公害と環境未来館  
伊藤幹郎さん



富山県立イタイイタイ病資料館  
青島明生さん



意見交換会

10月6日（土）、四大公害病の語り部がイタイイタイ病資料館に集まり、公害被害と教訓を後世に語り継ぐ『四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～』が開催されました。

前半は、「水俣市立水俣病資料館」の吉永理巴子さん、「新潟県立環境と人間のふれあい館」の小町ゆみ子さん、「四日市公害と環境未来館」の伊藤幹郎さん、そして「富山県立イタイイタイ病資料館」の青島明生さんの順で、実体験をもとに当時の様子などを語っていただきました。

当日は、富山県内外から約80人の方々が来場され、公害病による苦しみ、肉親を失った悲しみ、また救済活動の苦勞など、それぞれの講話に参加者は聞き入って

ました。

後半では講話いただいた4人の語り部に、イタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長、当資料館の飯田館長が加わり、「公害病の事実を広く伝えていくには」をテーマに意見交換を行いました。

語り部からは、小学校で出前講座を開催するなど、子どもたちを対象にした啓発事業について、具体的な事例を交えながら話し合われました。

イタイイタイ病対策協議会の高木会長からは、「公害という言葉が消えつつあるが、当事者が伝えていくことが大切だ。」とのご意見をいただきました。

## トピックス 海外から見学に



インドネシアの教育関係者

日本のみならず、海外からも多くの見学者が訪れています。

シンガポールから中学生の皆さんが来館されました。

また、インドネシアの教育関係者や、東ティモールの行政官が来館され、イタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史について学ばれました。



シンガポールの中学生の皆さん